

2020年4月から2022年3月の間に愛知学院大学短期大学部歯科衛生学科で 口腔機能検査の実習を受けた卒業生へ

若年者の口腔機能の問題と自覚症状の相違について調査、分析することで、効果的な口腔健康管理、口腔機能リハビリテーションに寄与できると考え、本研究を行います。研究に使用する口腔機能の検査項目は、口腔衛生状態（口腔細菌定量検査）、口腔乾燥（口腔水分計）、咬合力（残存歯数）、舌口唇運動機能（オーラルディアドコキネシス）、舌圧（舌圧計）、および口唇閉鎖力（口唇閉鎖力検査）の6項目です。

この研究の対象者に該当する卒業生で、検査結果等を研究目的に利用されることを希望されない場合は、**2024年7月31日まで**に末尾に記載の問い合わせ先までご連絡ください。

【研究名】

歯科衛生学生における口腔機能の検査結果と自覚症状に関する検討

【研究責任者】 愛知学院大学短期大学部歯科衛生学科 相原喜子

【研究期間】

倫理委員会承認後～2026年 12月31日

【対象となる方】

2020年4月1日～2022年3月31日の間に本学において愛知学院大学短期大学部模型実習室で行う「歯科臨床補助論実習」、「歯科保健指導論実習」において口腔機能検査の実習を受けた方。

【研究の内容と目的】

口腔機能は、一般的な身体機能と同様に、乳幼児期に機能を獲得し、生理的老化または病的老化により機能を減じていきます。近年、「口腔機能発達不全症」と「口腔機能低下症」などの疾患英が保険収載され、全ライフステージにおける口腔機能管理の重要性が示されたが、「口腔機能発達不全症」の対象年齢は0歳から18歳未満まで、「口腔機能低下症」は50歳以上であり、若年成人は対象に含まれていません。若年層の口腔機能検査をルーティンで行っている歯科診療所は多くなく、さらに軽微な口腔機能の問題を異常と認識しない、あるいは軽微であるがゆえに自覚にいたらないまま放置され、症状が進行してしまう可能性があります。

そこで、若年者の口腔機能の問題と自覚症状の相違について調査、分析することで、効果的な口腔健康管理、口腔機能リハビリテーションに寄与できると考え、本研究を行います。

【使用する情報】

- ①基本情報：年齢、性別
- ②口腔機能（口腔衛生状態、口腔乾燥、咬合力、舌口唇運動機能、舌圧、および口唇閉鎖力の6項目）の検査結果

【個人情報の保護】

個人情報の保護に関する法律に基づいて、調査により得られた個人情報は厳重に保護します。また、研究結果は取り扱いを慎重に行います。なお、本研究は集団で解析し、情報公開を行います。個人情報管理者は、愛知学院大学短期大学部 教授 内海倫也が担当します。

この研究のためにデータを使用してほしくない場合は、下記の問い合わせ先に**2024年7月31日まで**にご連絡ください。研究に参加いただけない場合でも、不利益が生じることはありません。

ご連絡をいただかなかった場合、ご了承いただいたものといたします。

ご協力によって得られた研究の成果は、個人が誰であるかわからないようにした上で、学会や学術雑誌およびデータベース上で公に発表されることがあります。

資料は、匿名化されたまま厳重に保存され、原則として本研究のために使用されます。保管期間終了後には、シュレッダー処理することで廃棄します。なお研究データを統計データとしてまとめたものについてはお問い合わせがあれば開示いたしますので下記までご連絡ください。

い。

この研究について、わからないことや聞きたいこと、何か心配なことがありましたら、お気軽に下記の連絡先までお問い合わせください。

【問い合わせ先】

研究責任者： 相原喜子
〒464-8650 名古屋市千種区楠元町 1-100
愛知学院大学短期大学部
TEL：052-751-2561（代）
FAX：052-761-3461